夫婦の勢力関係および夫婦関係満足度の規定要因
――夫婦の社会経済的地位のバランスに注目して――

永瀬　圭（神戸学院大学）

1　目的

戦後の日本の家族をとらえる上で、夫婦の役割関係、勢力関係、そして情緒関係、という三つの側面に注目する重要性が指摘され、とりわけ、勢力関係は役割関係とともに、夫婦間の平等性の指標のひとつになるとされている（松信 2012: 63）。また、近年は離婚が増加しているが、夫婦の勢力関係（夫婦の意思決定のあり方）は夫婦関係の様相に影響を及ぼす要素のひとつと考えられるので、夫婦の勢力関係を規定する要因を明らかにすることは、重要な研究課題である。

日本には、夫婦の勢力関係（夫婦の意思決定のあり方）に関する研究は多いとは言えない。代表としては、1967 年のブラッドの研究が挙げられるが、彼の調査以後、高学歴化や就業率の上昇など、日本の女性をめぐる社会状況は大きく変化した。それに伴って、夫婦関係の様相も変化していると考えられる。

そこで、本報告では、最終的な意思決定者に焦点を当てた勢力関係の理論として有名な資源論などを参考にしつつ、夫婦の社会経済的地位（学歴と収入）のバランスに注目しながら、近年における夫婦の勢力関係の実相およびその規定要因、さらには勢力関係と夫婦関係満足度との関連性について検討する。

2　データと分析方法

分析に用いるのは、2019 年に日本家族社会学会全国家族調査委員会がおこなった「家族についての全国調査」のデータである。家事と家計の問題に関する夫婦間の意見の通りやすさと夫婦関係満足度を従属変数、夫婦の学歴と収入の組み合わせを独立変数、分析対象者自身の年齢、学歴、収入（女性の分析の場合は夫の収入）、ライフステージ、家事分担の割合（夫婦関係満足度の分析の場合は夫の家事分担の割合）、配偶者からの情緒的サポート（夫婦関係満足度の分析のみ）を統制変数とし、男女別に順序ロジスティック回帰分析をおこなう。なお、28～47 歳の離死別経験のない有配偶者（配偶者の年齢は 60 歳未満）を分析の対象にしている。

3　分析結果

分析結果は、次のようにまとめられる。まず、全体としては、家事と家計の問題について女性のほうが男性よりも意見が通りやすい傾向が見られた。夫婦の社会経済的地位の組み合わせの影響を見ると、学歴の組み合わせでは、男性の場合、妻と学歴が同じ場合や自身のほうが低い場合には家計の問題について意見が通りやすいことが明らかになった。また、女性の場合は、自身のほうが学歴が高い場合に家事のやり方や分担について意見が通りにくいことが示された。収入の組み合わせでは、男女ともに勢力関係とは関連しないことが示された。さらに、勢力関係は夫婦関係満足度と関連しないことも明らかになった。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP17H01006 の助成を受けています。NFRJ18 は日本家族社会学会 NFRJ18 研究会（研究代表：田渕六郎）が企画・実施した調査で、本研究では ver.2.0 データを利用しています。

文献

Blood, Robert O., 1967, *Love Match and Arranged Marriage: A Tokyo-Detroit Comparison*, The Free Press. (=1978, 田村健二監訳『現代の結婚――日米の比較』培風館).

松信ひろみ, 2012,「共働き夫婦の家族関係」松信ひろみ編『近代家族のゆらぎと新しい家族のかたち』八千代出版, 59-77.

（キーワード：勢力関係、夫婦関係満足度、社会経済的地位）